

テーマ

「持続可能な農業について」

令和7年度 議会報告会・意見交換会

【報告書】



- 1・議会報告・意見交換会の概要
- 2・基調講演
- 3・ワークショップ
- 4・各班からの報告とまとめ
- 5・参加者アンケートの集約と報告。

見附市議会
産業厚生委員会

1 議会報告と意見交換会の概要

(1) 主催 見附市議会 産業厚生委員会

(2) 日 時 令和7年11月10日(月)
午後2時～4時

(3) 会 場 見附市役所5階 委員会室

(4) 意見交換のテーマ 「持続可能な農業について」

(5) 基調講演

「耕作放棄地対策と地域農業活性化のために」

(有) グリーンファーム清里 代表取締役 保坂一八

(6) 参加者数 17名 A班～5名 B班～5名
C班～4名 D班～3名

市議会議員 8名

委員長 加藤秀之 副委員長 小坂井哲夫
エラヒ美砂子、徳永英明、佐野統康、佐野勇、
重信元子、関三郎、佐々木志津子

(7) 次 第
・開 会

・あいさつ

・議会より報告 ・委員会の年間サイクルについて
(渡辺議長)

・見附市の抱えている問題について
(加藤産業厚生委員長)

・基調講演

・意見交換(ワークショップ)

・まとめと発表

・保坂氏より講評

・質疑応答

・閉 会



2 基調講演

講演主旨

30年前、農業従事者の高齢化で耕作放棄地が急増した。

上越市清里地区。危機的状況から行政と農協が連携し「農業公社」(土地利用調整)と「グリーンファーム清里」(農業生産法人)を設立。

この二段構えの体制で、社会的使命(農地保全)と経済的採算を両立させてきた。



3 ワークショップ

テーマ：「持続可能な農業について」

※ 農業関係のテーマに絞られているため、参加者は関係団体・個人に特定し、出席依頼を行い、参加していただいた。(参加者、班分け 別紙)

ワークショップでの話の切り出しを促すため、例として以下5点の課題を示し、作業に入った。

- 1 後継者対策・担い手確保
- 2 集落営農推進
- 3 鳥獣対策
- 4 遊休農地活用
- 5 儲かる農業について



4 各班からの報告とまとめ

1) 各班の報告 ※次ページ以降に記載

2) 報告のまとめ

(各班の共通する主な課題)

- ・後継者・担い手不足～オペレーター世代の高齢化が進み、若手の人材が不足している。
- ・儲かる農業の実現～設備投資の負担、温暖化、販売力不足などによる収益確保が困難だ。
- ・農地集約と地域計画～離農者の農地を引き受ける調整役(コーディネーター)が不足している。地域計画の情報が住民に浸透していない。
- ・鳥獣被害～クマや猿による被害が深刻化しているが、対策を担う狩猟者が不足している。

(提案された主な対策)

○ 魅力的な組織・雇用環境創出

- ・他産業(市役所・銀行など)と同等の給与水準や完週休2日制を導入し、魅力的な労働条件を整備する
- ・「見附市農業ホールディング会社」のような組織を設立し、地域全体で後継者を育成する。

○ 収益性向上と省力化

- ・スマート農業(ドローン等)の導入によるコスト削減と省力化
- ・減農薬・減肥料による付加価値向上や、複合経営を推進する

○ 連携と支援体制の強化

- ・生産だけでなく販売面もサポートする仕組みを構築し、市民の理解と応援を得る
- ・個人や集落の努力だけでは限界があり、行政と連携して外部の担い手を呼び込む
市の補助金拡充や年齢制限の撤廃も必要だ



各班の報告（A 班：徳永英明、エラヒ美砂子）①

後継者対策・担い手確保

- ・価格保証による安定した収入が担い手の確保になる。
- ・取り組みが確実に実行できれば儲かる農業で若い担い手につながる。
- ・現在の営農組織においても担い手の確保が必要

集落営農推進

- ・地域計画は実態調査しただけ。意向調査でしかない。
- ・地域計画推進は進んでいない。国の指導だけでなく市でも早期に進めるべき。
- ・中立的な人が調整してほしい。
- ・地域に情報が行きわたっていないので改善してほしい。
- ・地域がまとまってほしい。集約できたらありがたい。
- ・集落だけでなく機械、人材、事務など市全体でまとめてもらいたい。

鳥獣対策

- ・猪が大発生して小栗山では5～6人、免許を取って捕獲にあたっている。（毎日捕獲している様子）
- ・ジビエに活用する手を市で考えてほしい。
- ・後始末は穴を掘らなければならない。市の対応を求めたい。

遊休農地活用

- ・活用を市で考えてほしい。
- ・行政の支援が必要。

儲かる農業について

- ・土地改良区の方で営農部分を発足し、儲かる農業の実現にむけて考えている。安定した農業で収入を得ることが（大切）

各班の報告（A 班）②

その他

- ・土地改良区のポンプ等の設備が老朽化、ポンプや設備の交換が必要だがその費用が大変。インフラ整備費用にかかる金額が億単位で懸念される。
- ・補助金の制度に年齢制限があるが制限を撤廃してもらいたい。

各班の報告（B 班：重信元子、佐野統康）①

後継者対策・担い手確保

- ・発掘が必要
- ・機械化や AI 等の活用（ドローンや自動運転）

集落営農推進

- ・農地の貸し借りや農地集積化
- ・地主への金額を上げる
- ・制度改正が必要（本来は中間管理機構がやるべきこと）

鳥獣対策

- ・狩猟する若者の育成に力を入れる。（資格の緩和が必要）
- ・里山の管理をする

儲かる農業について

- ・減農薬や減肥料など環境にやさしい農業にする
- ・コメばかりに頼っているが、冬のことを考えたり、ハウス栽培や園芸にも力を入れる。

各班の報告（C 班：小坂井哲夫、関三郎）①

後継者対策・担い手確保

- ・後継者対策。
- ・子どもが農業を継がない。参入のハードルが高い。
- ・機械が高い（価格が）。
- ・他人に任せる。
- ・外国人の雇用。
- ・スマート農業。
- ・レンタルで提供。

集落営農推進

- ・まだ個人意識が高い。
- ・地域計画を作成したが担い手が決まっていない地区が多い。
- ・まとめ役がいない。
- ・各集落の組織が進まない。
- ・儲かるより持続できる農業を

鳥獣対策

- ・見附でジビエ料理が出せるお店

遊休農地活用

- ・太陽パネルの設置
- ・観光農園に利用
- ・遊休農地は他産業に転用する。
- ・期間を決めて農業に興味がある人に貸す。

儲かる農業について

- ・儲からないから若者が継がない。
- ・儲かる農業定義がない。

各班の報告（C 班）②

その他

各班の報告（D 班：佐々木志津子、佐野勇）①

後継者対策・担い手確保

- ・後継者の確保は採用者の雇用条件を整えなければ人は集まらない。
- ・銀行並みの初任給の支給・・・これは大事！
- ・スマート農業への支援
- ・機械オペレーターの世代交代、育成が必要。
- ・講師の講演から30年前の清里村を考える。

集落営農推進

- ・法人化の連合化（見附農業ホールディングの設置）
- ・法人化に対する多様な意見があり、集約が課題。
- ・話し合いなど、意見をまとめるキーパーソンが必要。
- ・地域における作業分担。
- ・地域計画の周知と推進。
- ・農業委員会をハブ拠点として最初に農地集約を進めてもらいたい。
- ・圃場整備を推進すること。
- ・農地の貸し借りは農業委員会で一括管理し、大規模化を目指す。

鳥獣対策

そこまで話が進まないでいた

遊休農地活用

- ・市の方でも活用方法のアイデアがあれば提示してほしい。

儲かる農業について

- ・行政のいろいろな支援を受けながら、生産者の苦労に報いるために販路拡大や適正な米価であってほしい。

各班の報告（D 班）②

その他

- ・とにかく生産者人口を増やすために、できることを進めてほしい。

5 参加者アンケートの集約

産業厚生委員会 意見交換会 参加者アンケート（11月10日）

1 年 代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	1	1	2	8	3
2 議員の議会活動報告について	わかりやすい	わかりにくい	どちらともいえない		
	8	3	3		
3 基調講演について	満足	やや満足	ふつう		
	10	3	2		
4 意見交換会について	満足	やや満足	ふつう		
	3	9	3		
5 今回のような報告会・意見交換会が 今後あったほうがよいか	ぜひ続けて	できれば続けて	どちらでも		
	4	9	2		
6 また同じ機会があったら参加しますか	参加する	参加しない	わからない		
	10	0	4		
7 委員会、議員への要望は					
・ 人手不足、人口減少					
・ 後継者対策で集落営農組織化がなかなか進まない。JA・行政側からテコ入れできないか。					
・ 補助金・助成金の充実に向け、実のあるものにしてほしい					
・ 意見交換だけでなく、飲み会もしてほしい。時間が足りない。					
・ 地域計画のブラッシュアップ（を望む）					

※回答者 15人

※70歳以上の1人の方が2つの質問に対して無記入でした。